

令和5年度 第1回周南市総合教育会議 会議録

1日 時 令和5年10月23日(月) 開 会：14時00分
閉 会：15時20分

2場 所 周南市岐山通1丁目1番地
周南市役所 庁議室

3出席委員 藤井律子市長 厚東和彦教育長 松田福美委員 片山研治委員
岡寺政幸委員 吉本妙子委員

4事務局 企画部長 企画部次長(企画課長) 教育部長
教育部次長(教育政策課長) 生涯学習課長 人権教育課長
学校教育課長 学校給食課長 中央図書館長

5書 記 教育政策課(担当課長補佐 主査)

6協議事項

(1) 市長あいさつ

発言者	発言内容
市長	<p>皆様方には、いつも本市教育の充実、発展のために、お力添えを頂き深く感謝する。</p> <p>本年4月に「こども基本法」が施行されるとともに、国において「こども家庭庁」が設置された。</p> <p>周南市においては、国に先駆け、令和2年にこども局を開設し、本年5月には、県内初となる「こどもまんなか宣言」を行い、現在、子ども政策の基本方針や計画策定に取り組んでいる。</p> <p>今、子どもを取り巻く環境が大きく変化しようとしているが、あすに向かって生きていく子どもたちを、学校・家庭・地域・行政の緊密な連携のもと、いつくしみ、育てていくことが重要であり、この取組こそが、未来を担う子どもたちが心豊かにたくましく生きていくための「生き抜く力」を育むことにつながる、と確信している。</p> <p>本日の会議は、第3期教育大綱の策定に向けて、皆様と活発な協議をしたい。</p>

(2) 協議内容の説明

発言者	発言内容
事務局	<p>現在の教育大綱は第2期大綱として令和2年度から令和6年度が対象で、基本理念は「子どもの夢に寄り添い「生き抜く力」を育む周南の教育」を掲げている。</p>

	<p>今後、令和7年度から令和11年度を対象とする第3期大綱の策定を進めていく。</p> <p>今回の会議では、第3期大綱の策定を進めていくにあたり、市長、教育長、教育委員の「教育に対する考え方、思い、気づき」等について意見交換頂き、今後策定する大綱の基本理念や基本方針に反映させていく機会としたい。</p> <p>これからの教育にどのようなことが求められているか等もお聞きしたい。</p>
教育長	<p>現在の教育大綱を策定した令和元年度には予測していなかったことが、令和2年度から6年度のこの期間に起こっている。例えば、コロナ禍になったこと、普通教室のエアコン整備、GIGAスクール構想の進展などが挙げられる。</p> <p>令和7年度以降のことは予測が難しいが、現在の状況を踏まえて、学校教育や社会教育への思い、将来の子どもたちへのメッセージも込めて、ご意見や感想を頂きたい。</p>

(3) 協議内容

①周南市の子どもたちにはどのように成長してほしいと考えるか。

発言者	発言内容
松田委員	<p>一人一人が自分に自信を持ち、夢や希望を抱き、前向きに生き抜いて欲しい。時代が大きく変化し、閉塞感漂う時代が続いている中で、変化に対応しながら、前向きに取り組んでいくことができるかが生きていくうえで必要な力ではないか。そのためのエネルギーが必要で、それは自分に対する自信ではないかと考える。</p> <p>自分を知り、自分に備わる個性、特性などの良さを捉えることで夢や希望も生まれ、行動するエネルギーも出てくるのではないかと思う。特に子ども時代にエネルギーをしっかりと蓄え、その後世界に出ていくときの基となるような教育をつくっていききたい。</p>
岡寺委員	<p>コロナ禍を通じて逆境が自分の生き抜く力をつくっているととも思う。コロナ禍で感じたことで、差別的なこと、判断を委ねられ迷うことがあった。</p> <p>自分に自信を持てるように育ててほしいというのが私の願い。自分に自信を持つためにふるさとを思う心、他者を思う心、これまでの歴史を感じる心を育てていきたい。後にあの時はよかったと感謝の心を持てるように成長してほしい。</p>
吉本委員	<p>現在の理念である生き抜く力はとても良い。生き抜く力のために何が必要かと考えたときに、深掘りして自分自身で考える力、</p>

	<p>考え抜く力ではないかと思う。考え抜いていくと自分ごととして捉えることができるようになるのではないかと。自分はどのように考え、行動すればよいのかを考えることが大切。災害、コロナ、防犯などにおいて自分の身を守ることを含め、自分で考えて行動することがとても大事。考え抜く力を育ててほしいと思う。</p>
片山委員	<p>コロナ禍や色々な社会環境の中で、生きる力だけでなく生き抜く力が大切だと考える。考える力も必要であり、一人で考えてできないことは、寄り添い、協力体制をつくる。色々な力をつけながら、周りの人がサポートする体制、環境づくりが大切。</p>
教育長	<p>昨日の周南こどもゆめまつりでは子どもたちが中核を担いながら行事に参加していた。地域での関わりを通じて、地域に感謝する心、地域を愛する心が育っていくと思う。</p> <p>私も教育というフィールドの中で、周南市の将来を担う子どもたちを育てていきたいという思いで日々仕事をしている。地域行事に参画し、学校教育では、コミュニティ・スクールを進め地域とのつながりができ、その中で子どもたちが育ち、地域を愛し、大切にできる子どもに育ててほしい。将来的に地元に戻り頑張りたい。</p> <p>一方、銀座の時計店襲撃<small>しゅうげき</small>などの凶悪事件を見て、あのような事件を起こさないように学校でできることはなかったのかと考えている。考える力、自分に自信を持つことが事件や事故を防ぐことにつながるのではないかと、本日皆様の話を聞いていた。自分を律する、自分をコントロールする、地域に感謝することができる子どもたちを育てていきたいと個人的には思う。</p>
市長	<p>自分が孫育てで思うことは、自分の頭で考え、自立できる子になってほしいということ。親の立場の時は、いい子を育てようという思いでいっぱいだったが、これからの時代、(騙されないように)たくましく、自分がしっかりしていないと、大きな社会の中で生き抜くことができないのではないかと考える。</p>

②学校訪問や幼稚園訪問を通じて、子どもや先生の授業等の様子、学校施設の状況を見て、周南市の教育現場の現状についてどう感じているか。

発言者	発言内容
片山委員	<p>今日、富田東小学校に行ってきた。トイレや普通教室の空調など学校のハード面は随分整ってきている。授業においても、各学校が運営方針を立て、それに向かって計画を立てしっかり準備されている。</p>

	<p>もう少し子どもたちに寄り添える時間ができたらよい等あるが、現状では環境は整っているのではないかと思う。</p>
吉本委員	<p>幼稚園、小・中学校、どこの学校に行かせてもらっても先生方が大変熱心にされているというのが第一印象。先生の業務量が非常に多いことに驚いている。業務が多岐にわたっており、子どもに向き合うための時間にプラスして、その他の子どものための時間が非常に多いと考える。働き方改革と言われているが、その辺りを整理していく必要があると感じている。</p> <p>先生ではないとできないこと、子どもと向き合うための時間を確保しつつ、他のことはできる限り DX を使いやっけていくことが必要ではないかと思う。</p>
岡寺委員	<p>私も学校のハード面は随分整ってきていると感じる。しかし、既存施設を従来の使い方を使っている。少子化が加速度的に進んでいる中で、空き教室が気になる。使い方を見直してもよいのではないかと思う。現在のハード面ではセキュリティを高めて使用することが難しい。地域の人々が学校に入っていくづらい、学校側の受け入れ体制ができていないと感じることがある。</p> <p>富田東幼稚園に行った際、小学校と同じ敷地内にあり、幼・小連携ができる立地にあるが空き教室が有効に活用されていない。人数が少ない。私立の方が魅力的で通わせている人が多いと聞いた。その状況を何とかして改善できればと思った。</p>
松田委員	<p>施設の使い方については工夫の余地があると思った。子どもたちが育つ場、地域との連携を図る場として、どう活用するか具体的に案を出せるとよい。</p> <p>先生方が非常に真摯に取り組まれ、子どもたちも落ち着いていると感じるが、何か物足りないところもあると感じる。子どもたちに自分に自信を持って生き抜いて欲しいと考えたときに、授業が分かる、分からないということではなく、一人一人違う子どもたちがそれぞれの学びを展開できているかというところに視点を移して授業を捉えていくことも必要。国の動きも教え育てるから学ぶに変わってきている。分かりましたかではなく、あなたはどうか考えましたか。自分の思いを出せて、学びが進んでいくことができるとよいと思う。</p> <p>周りも同じ視点を持つことが大切。</p>

- ③地域で子どもたちが参加する活動に携わる機会もあると思うが、その中で、地域で子どもを育てるという意識や地域の願いや思いをどのように感じているか。

発言者	発言内容
岡寺委員	<p>年々意識が落ちていていると感じる。具体的には自治会や子ども会離れ。役員をする人がいない。こどもまんなか宣言を機にみんな考えて欲しいと思った。周南公立大学との連携で何かできないか。子どもたちを地域で育てよう、それに関わろうということイベントを通じてアピールできるとよい。イベント等に参画する人が毎回同じだと意識が広がらない。</p>
片山委員	<p>鹿野では、子どもと地域が一緒になってイベントをやっている。ふるさとまつりや敬老会に中学生がボランティアで参加し、盛り上げてくれている。地域の人が学校とどのように関わっているかという、伝統的なことを学校に行き行って教えている。少子化によりうまくいかなくなることもあるが、地域の中で子どもたちをどう育てていくかを考えること、子どもたちの力を地域の力に変えていくことが必要と思う。</p>
吉本委員	<p>地域で子どもたちを育てることは大事だと思うが、日頃子どもたちと関わることがない方は何をしたらよいのか分からないのではないかと。長年関わっている方は、ネットワークもできているし、何をしたらよいかがおおよそ予想がつくと思う。何をしたらよいか分からない人へアプリなどを利用し、何をしたらよいか分かるようにすることで参加しやすくなるのではないかと。周知不足があると思う。</p> <p>地域を育てる中で、子どもは大切であるが、もっと大切なのは保護者へのサポートではないかと。祖父母が近くにおらず、夫婦のみで子育てしている家庭は、大変なこともあると思う。サポートセンターだけでなく、近隣住民でサポートできることがもっとあるのではないかと。保護者が安定すれば、子どもも安定すると思うので、サポート体制ができると思う。</p>
松田委員	<p>地域の中で子どもを育てることへの意識、関わりを増やしていくことが育てることにもつながると思うし、こんなふうに育てて欲しいと願いを持って関わることで育てていくと思う。前者は、どこに行ったらどんなサービスが受けられるという情報発信、ネットワークづくりが大事。行事を通じて思いを共有する機会、コミュニティ・スクールで地域と連携した行事を行う機会が増えていることはありがたい。ただ、関わっている人が限られている</p>

	<p>のも現実。</p> <p>品格と誇りという風土を目指すためには、どのようなプロセスが必要かを意見交換する機会を仕組みでいくことが重要。こどもまんなか宣言をきっかけに周南市は子どもたちをどう育てるか。</p>
--	--

④周南市には伝統文化や文化財、民俗資料館など多くの教育資源があるが、これらについてどのように思うか。

発言者	発言内容
吉本委員	<p>自分自身が学ばないといけないことがたくさんあると実感している。自分が知り得たことは広めていきたい。民俗資料館への来館者がもっと増えたらよいと思う。歴史を知る機会をもっと増やしていけると良いと思う。</p>
片山委員	<p>鹿野の歴史について調査したことがあるが、つくった目的、どのように使用されているか、掘り下げて調べていくと今まで知らなかったことが分かる。</p> <p>歴史、伝統文化を学んでいく機会が増えるとよいと思う。</p>
松田委員	<p>改めて文化財や施設が多く豊かだと思う。民俗資料館は熊毛や鹿野にもある。また図書館もたくさんある。豊かな資源があるのにあまりにも知らないことに反省。訪れたときに他の施設に繋がるように、他施設の紹介コーナーがあればよいと思う。民俗資料館の学習コーナーもとても工夫されている。</p>
岡寺委員	<p>大人も学ぶこと、知ることは楽しい。知ることの楽しみを子どもたちにも伝えたい。知らない歴史がたくさんある。観光キャッチフレーズ「そーなん!?周南!!」も何かクエスチョンがあって「そーなん!?周南!!」があると思う。そのクエスチョンをたくさん仕掛けたらよいと思う。観光面でもしっかりアピールできるとよい。</p>

⑤子どもたちは、周りにいる大人たちが育てていくものだが、その大人たちに対する社会教育の必要性についてはどう考えるか。

発言者	発言内容
片山委員	<p>子どもたちから学ぶことがたくさんある。それを見ていると自分たちも年齢関係なく学ばないといけないと思う。学ぶことは自分のためにも大切。自分ごととして考え、一人でできなければ周りを巻き込むことで地域が元気になる。学ぶことは生きるエネルギーにもつながってくると思う。</p>
松田委員	<p>社会教育はとても大事。風土の中で生きて、子どもたちを育てていく中で、リードするものが社会教育だと思う。自己実現につ</p>

	<p>ながる学びを提供してもらっている。</p> <p>教育委員会の人権教育や企業のセミナーは、色々な規範や目的を私たちに教えてくれるもの。興味があるものだけでなく、社会に関わる内容を受講することも大事。少し堅苦しく思う講座も好意的な意見や発見があり、対話や相互理解が生まれる。もっと宣伝や機会を提供することは必要だと思う。自己啓発を行うことが必要。今、生涯学習がクローズアップされて、市民講座もたくさんある。こんなふうになったらいいなということにつながる機会となればよいと思う。</p> <p>企業セミナーは先の先を考えている等違った視点があり、大変参考になることが多い。大人も子どもも参加してもらいたい。</p>
岡寺委員	<p>社会教育は非常に幅広い。必要性を感じる。啓発するために人権教育など日頃参加しない人にも参加して欲しい。ネットの情報発信だけでなく、紙媒体には力がある。絵を使って分かりやすく紙媒体で情報発信してほしい。</p>
吉本委員	<p>社会教育の必要性を感じる。学ぶことの楽しさを教えるうえで、大人がまずは楽しむことが大切。大人が生き生きと何かに熱中している姿を魅せることが大切だと思う。大人も楽しく学ぶことが必要。</p> <p>過去がよかったとずっと思っているのではなく、時代は変化している。次に何をしていくべきなのかを子どもだけでなく、大人も一緒に考え、担い手をどう育てていくかを話しながら共有していくことも一つの社会教育として必要なのではないと思う。</p>

⑥これからの教育にはどのようなことが求められると思うか。学校教育、社会教育どちらの視点からでも構わない。

発言者	発言内容
岡寺委員	<p>今日の話題でなるほどと思うことがたくさんあった。これからの教育は、自分で考えることができるように学んでいく。親子、地域、学校が今までの役割にとらわれることなく、みんなで子育てをしていくという意識が大切だと思う。一緒にやって盛り上げていく、周南市の子育ての輪ができたらいと思う。</p> <p>少子高齢化が切実。リアルな人口を見ながら考えていく。自分ごととして問題を受け止め、みんなで子育てをしていく仕掛けができるとうい。</p>
吉本委員	<p>つながるという言葉があるが、自分は受け継がれる方だと思っていた。いつの間にか自分が受け継ぐ立場になっていたことに気</p>

	<p>づいた。子どもたちが自立するために、どのようなサポートができるかを考えることが重要だと思う。</p> <p>自立をサポートしながらこどもをまんなかにして育てていくことが必要。子どもたちに自分で考え抜く力をつけなさいと言うときに、周りの大人がもっと考えないといけない。考える力、行動力を持ってほしい。</p>
片山委員	<p>考える力をつけるためには、学んで知識をつける必要があると思う。子どもが力をつけるために、まずは学校で色々なことを学ぶことが基本となる。社会に出たときに、生活では使わないものもあるが、解く力をつけることが考える力に繋がると思う。</p> <p>学校では学ぶこと、健やかな体をつくるために体力をつけること、道徳の心を身につけるために互いに学ぶことが大切。</p> <p>他にも大切なことはたくさんあるが、学校では上記のことを基本とし、地域との連携ではコミュニティ・スクールを活用し、地域の連携を広めていき、地域力に活かしていく教育ができればよいと思う。</p>
松田委員	<p>知・徳・体は生きる基になり大事にしなければならない。</p> <p>周南市の基本理念として生きる力を育み、そのうえで生き抜く力をつけたいという一歩先を目指していることを再確認した。生き抜くことは自立すること。自立させていくために知・徳・体に加え何が必要かをはっきりさせることが必要。</p> <p>評価・振り返りをする際にイメージを具体化することが必要。</p> <p>できないことも個性と捉え認める。幼児・児童は認められることで前向きになれる。評価ではなく、子どもの一人一人の思い、願い、学びを認めていく。</p> <p>世の中の考え方をシフトしていくと、自分に自信が持てたり、余裕が生まれたりするのではないか。不登校の子も自分を活かせる場を設けられるのではないか。自分を大事にして、全員が学び、生活できることを目指さないといけない。</p> <p>一人一人に自分の個性を大事にし、磨いていける学校教育、社会の仕組みとなればよい。コミュニティ・スクールで地域の人が学校に入ることによって視点が変わった。</p> <p>こどもまんなか宣言で何ができるか、新しい視点で考える。それを仕掛けていく取組が必要。</p>

(4) 終わりに

発言者	発言内容
市長	<p>自分の子育てを反省しながら聞いていた。母として自分の子を育てるときは昨日よりは今日、今日よりは明日とできるようになることを求めている。</p> <p>それが孫になると、そんなことができるの(感動)と思える。自分にゆとりができ、相手を認めることができる。最近、世代を超えてのゆとりから教育を考えるようになった。</p> <p>今日の会議でいろんなことを考えさせられた。貴重な意見を聞かせてもらい、大切な視点も教えてもらった。第3期教育大綱に本日の内容を落とし込んで作成していきたい。</p> <p>今回は早い段階から皆様が意見できるような雰囲気策定していきたいので、忌憚<small>きたん</small>のない意見を聞かせてほしい。いいものをつくりたい。</p>
教育長	<p>今日の話聞いて、子どもたちを育てていくときに、家庭、親戚等身近にいる大人たちの存在が大きいと改めて思った。東京の幼稚園教諭が書いた記事に、子どもたちに「こんなことができたね」、「もっと上手になったらいいね」と声かけし、それを聞いて育つと子どもは今より上を目指す子と目指さない子に分かれてしまう。できたことを自分の良さとして認めるために「さすがだね」という言葉が良い。他人や今の自分と比較するのではなく、今の自分を認めるという発想で言葉かけをするとよい、と書いてあった。</p> <p>これから先の学校教育を考える際に、AIの進歩により、英語翻訳が簡単になったりして、自ら考えることが少なくなるのではないか。学校で学ぶことの大切さとは何かをしっかりと考えていく必要があると改めて思った。</p> <p>周南市の風土に教育委員会として何が貢献できるかを考えて、教育大綱の中に落とし込んでいけたらよい。そのために、皆様の知恵をお借りし、市長の思いも取り入れていきたい。</p>